

第2章 練馬区の環境の現状と課題

2-1 練馬区の概況

練馬区の環境を考える上での前提となる、地勢、人口・世帯、産業などの状況はつぎのとおりです。

(1) 地勢

東京都区部の北西部に位置し、都心からも近い、自然あふれるまちです

練馬区は、東京都区部の北西部、都心から約10～20 km、山手線の外側約5～15 kmに位置しています。

東西約10km、南北約4～7kmにわたり、面積は48.16 km²です。

地形は概ね平坦で、石神井川と白子川が、ほぼ東西方向に流れています。



(2) 人口・世帯

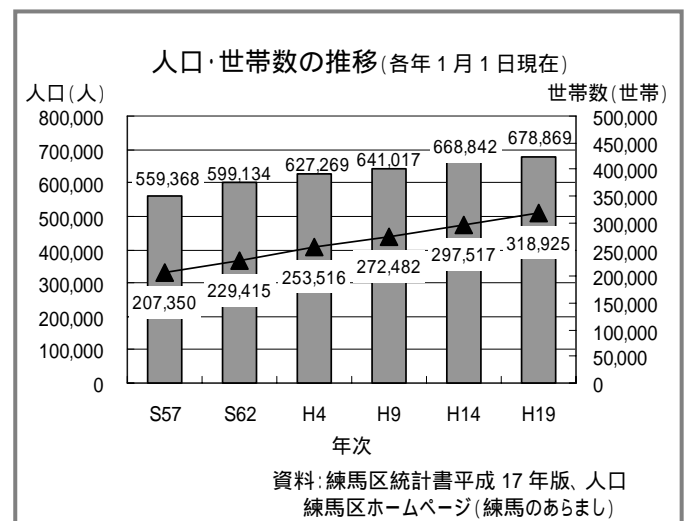
人口は増加傾向。世帯数も増加してるものの、世帯あたり人員は減少中です

平成19年1月1日現在、練馬区の人口は691,230人(うち外国人登録数12,361人)で、人口密度は14,353人/km²です(外国人を含む)。

平成17年1月1日現在の人口の年齢構成は、生産年齢人口(15～64歳)が62.5%と最も多くなっており、平成2年以降、高齢化・少子化が急激に進行しています。

平成19年1月1日現在の世帯数は318,925世帯です。世帯あたり人員は減少傾向にあり、昭和55年の2.73人から、平成19年には2.13人まで減少しました。これは、核家族化や単身世帯の増加が原因であると考えられます。

練馬区新長期計画(平成18年3月)における人口推計では、練馬区の人口は、平成33年頃に約71万人に達し、これをピークに、その後緩やかに減少に転じると見込まれています。



人口の年齢構成の推移(各年10月1日現在 国勢調査)

年齢構成		S60	H2	H7	H12	H17
年少人口 (0～14歳)	人	105,577	92,988	87,038	85,765	80,006
	%	18.0	15.0	13.7	13.0	11.6
生産年齢人口 (15～64歳)	人	435,973	463,246	466,364	467,346	432,926
	%	74.2	74.9	73.4	71.0	62.5
高齢人口 (65歳以上)	人	45,925	58,412	76,694	101,039	130,755
	%	7.8	9.4	12.1	15.4	18.9

資料：練馬区統計書平成18年度版、人口

(3) 産業

【商・工業】小規模事業所が 8 割、卸売・小売業が多く、事業所数は減少傾向にあります

区内の事業所数は、平成 16 年現在 21,546 で、平成 13 年の事業所数 23,478 に比べて減少しています。

新産業別分類別にみると、卸売・小売業が最も多く 5,626 事業所であり、サービス業（3,588 事業所）、飲食店、宿泊業（2,631 事業所）、建設業（2,585 事業所）、製造業（1,245 事業所）が続きます。

また、全体の 83.3% が従業員 10 人未満の小規模事業所です（平成 13 年）。

【農業】都市農業が盛んな練馬区ですが、農家数の減少、高齢化などの問題もあります

練馬区の産業上の特徴のひとつとして、東京 23 区のなかでは都市農業が盛んであることが挙げられます。

平成 18 年 8 月現在、545 戸の農家が農業を営んでいますが、農地面積、農家数ともに減少傾向が続いています。

また、農業従事者の約半数が 61 歳以上であり、高齢化が進んでいます。

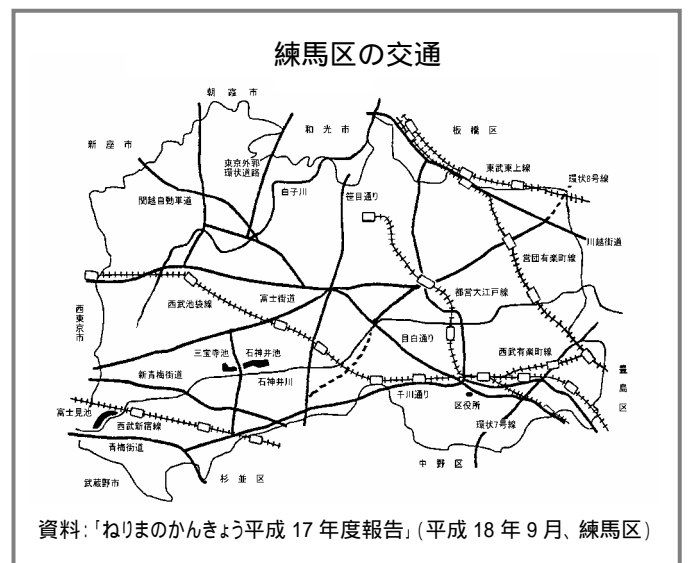
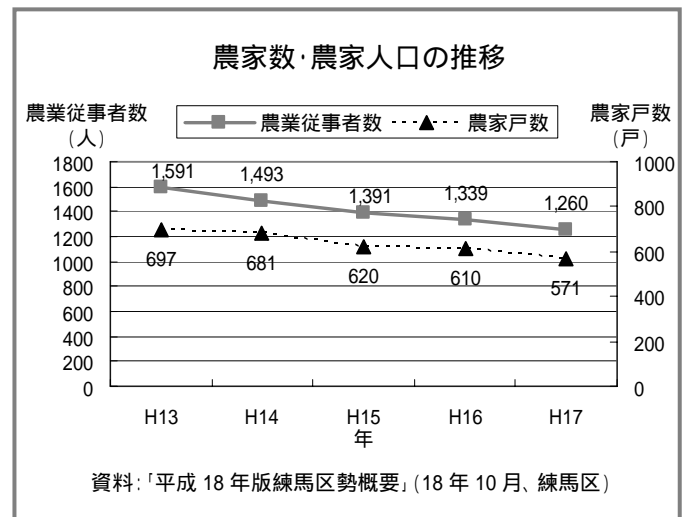
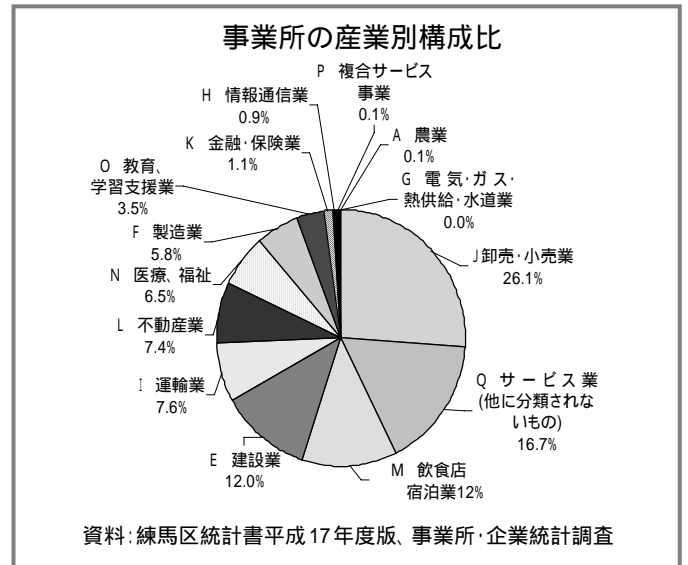
(4) 交通

【鉄道・幹線道路】東西方向に比べ、南北方向の整備は遅れています

鉄道、幹線道路とも東西方向の整備が進んでおり、南北方向は整備が遅れています。

区内を通る鉄道には、西武池袋線（中央部）、東武東上線（北部）、西武新宿線（南部）、地下鉄有楽町線、大江戸線などがあります。

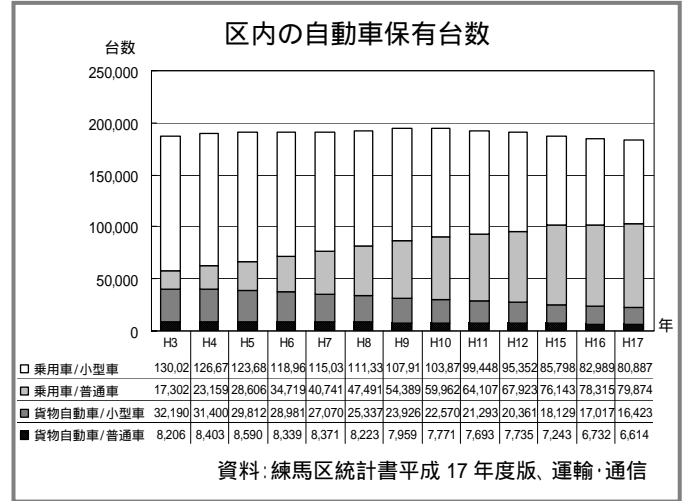
幹線道路は、東西方向に、北から川越街道（放射第 8 号線）、目白通り（放射第 7 号線）、青梅街道（放射第 6 号線）が、南北方向には、東部に環状第 7 号線、中央部に笹目通り（補助第 134 号線）が主要な道路となっています。また、北西部には関越自動車道路と外郭環状線の起点があります。



【自動車・自転車】自動車登録台数は若干減少。自転車利用が多く、放置自転車の問題も

区内の登録・届出自動車台数は、平成 17 年 3 月末現在 274,232 台で、平成 12 年 3 月末と比べると、若干の減少が見られます。ここ数年の傾向をみると、乗用車については小型車に比べて普通車の割合が増えてきています。また、貨物の台数が減少傾向にあります。

練馬区の平坦な地形の特性と、南北方向の公共交通機関が未整備なことから、通勤・通学等に自転車も多く利用されています。区内の駅周辺の自転車乗り入れ台数は、1日あたり約4万台を超えていますが（平成12年5月調査）、駅周辺に放置された自転車等の割合が約18%（約7,000台）にのぼるといった問題も起こっています。



(5) 土地利用

住宅都市に特化しており、宅地が全体の約 6 割を占めています。

練馬区は、近郊農村地帯から東京のベッドタウンへと発展したまちで、「住宅都市」にほぼ特化しています。

用途別土地利用面積率をみると、宅地が全体の約 6 割を占めており、そのうち約 7 割が住宅用として利用されています。

住宅の種類をみると、平成 13 年の住宅戸数のうち、独立住宅が 31.0%、集合住宅が 69.0%でした。平成 8 年の 67.2%に比べ、集合住宅の割合が増加しています。

土地利用比率の推移をみると、宅地が増加傾向にあり、平成 3 年から平成 13 年までの 10 年間で 3%増加しました。また、農業用地は過去 10 年間で 11.4%から 7.1%と大きく減少しました。公園等は 4.8%から 5.3%に徐々に増加しています。

